

# 琉球大学学術リポジトリ

研究活動（2009年4月～2010年3月）

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学農学部 公開日: 2011-04-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/19163">http://hdl.handle.net/20.500.12000/19163</a>

## 研究活動 (2009年4月～2010年3月)

### 【亜熱帯農林環境科学科】

#### ■谷口真吾

##### (1) 学会活動

- 1) 谷口真吾, 西原史子, 中須賀常雄. 2009年10月 雌雄異株性フクギ (*Garcinia subelliptica*) の雄株における性表現. 日本森林学会九州支部, 福岡
- 2) 西原史子, 谷口真吾, 中須賀常雄. 2009年10月 リュウキュウコクタン (*Diospyros ferrea*) の開花, 結実戦略における資源配分. 日本森林学会九州支部, 福岡
- 3) 谷口真吾, 福園幸太郎, 藤田ルツ. 2010年3月 海水の冠水頻度がヒルギダマシ (*Avicennia marina*) の塩腺から分泌される塩類の組成と量の変動に及ぼす影響. 日本生態学会, 東京
- 4) 谷口真吾, 藤田ルツ, 福園幸太郎, 比嘉育子, 今西剛, 中須賀常雄. 2010年3月 ヒルギダマシ (*Avicennia Marina*) 胎生芽の定着と分布域の拡大要因. 日本生態学会, 東京

##### (2) 学術論文

- 1) 谷口真吾, 西原史子, 中須賀常雄. 2009年9月. フクギ (*Garcinia subelliptica*) の開花フェノロジーと果実の成長. 亜熱帯森林・林業研究会研究発表論文集, 11-16.
- 2) 西原史子, 谷口真吾, 中須賀常雄. 2009年9月. テリハボク (*Calophyllum inophyllum*) の花の形態. 亜熱帯森林・林業研究会研究発表論文集, 17-19.
- 3) 高橋 遼, 中須賀常雄, 谷口真吾. 2009年9月. 日本の矮性型マングローブ林に関する研究. 亜熱帯森林・林業研究会研究発表論文集, 20-24.
- 4) M. Abdul. Maleque, Hiroaki Ishii, Kaoru Maeto, Shingo Taniguchi. 2010年1月 Seasonal prevalence of arthropods after line-thinning of overstocked Japanese cedar (*Cryptomeria japonica* D. Don) plantations in central Japan. *Landscape and Ecological Engineering*, 6(1) : 43-52.
- 5) 谷口真吾, 西原史子, 中須賀常雄. 2010年3月. モモタマナ (*Terminalia catappa*) の開花フェノロジーと果実の成長. 亜熱帯森林・林業研究会研究発表論文集, 20-26.

##### (著書)

- 1) 谷口真吾. 2009年4月 理科授業が面白くなる科学の話. 日本標準, 152-154.
- 2) 谷口真吾. 2009年6月 樹木医が教える緑化樹木辞典ー病気・虫害・管理のコツがすぐわかる!ー. 誠文堂新光社, 336pp. 沖縄産樹木12種執筆担当
- 3) 谷口真吾. 2009年7月 日本樹木誌編集委員会(編) 日本樹木誌(1). 日本林業調査会, 243-274.

- 4) 谷口真吾. 2010年2月 15周年記念書籍編集委員会(編) 木と家に右脳でアクセス「木と暮らす手引き書」. ウッドヘッド研究会, 158-161.

##### (3) 報告書(刊行物)

- 1) 谷口真吾: 造林樹種としてのクリの生活史(Ⅱ)ー材の利用および造林成績ー. 社団法人日本造林協会造林時報第163号: 8-10. 2009年6月.
- 2) 谷口真吾: 造林樹種としてのクリの生活史(Ⅲ)ー成長に関するフェノロジーー. 社団法人日本造林協会造林時報第164号: 10-12. 2009年10月.
- 3) 谷口真吾, 福園幸太郎, 藤田ルツ, 今西 剛, 山中典和: 計画研究 A-V 塩生植物における耐塩性メカニズムの種特性ー(ヒルギダマシ (*Avicennia marina*) の塩腺から分泌される塩類の日変化と環境要因)ー. 平成21年度鳥取大学乾燥地研究センター共同研究発表会講演要旨集. 13-16. 2009年12月
- 4) 谷口真吾: 造林樹種としてのクリの生活史(Ⅳ)ー繁殖特性, 堅果(種子)の採取・貯蔵法, 育苗ー. 社団法人日本造林協会造林時報第165号: 12-16, 2010年2月.

### 【亜熱帯生物資源科学科】

#### ■田幸正邦

##### 1. 学会および講演会等発表

- 1) Masakuni Tako, Yahiko Dobashi, Teruko Konishi, Ken Izumori, Hideharu Ishida and Makoto Kiso (2009年7月) A novel polysaccharide isolated from *Lactarius lividatus* (mushroom). 15<sup>th</sup> European Carbohydrate Symposium, ウィーン, オーストリア.
- 2) 田幸正邦 (2009年8月) 亜熱帯生物資源からの多糖類の開発利用. キチン・キトサン学会シンポジウム, 佐賀.
- 3) 田幸正邦, 小西照子 (2009年9月) *Alcaligenes* ATCC 31853の生成するS-198ガムの熱安定性の分子起源. 日本糖質学会年会, 岐阜高山.
- 4) 照屋武志, 建本秀樹, 小西照子, 田幸正邦 (2009年9月) オキナワモズク由来アセチルフコイダンの構造特性とマクロファーシ活性化作用. 日本糖質学会年会, 岐阜高山.
- 5) 北島聖子, 田場日和, 小西照子, 田幸正邦 (2009年9月) ニシヨモギからペクチン様多糖の分離同定. 日本応用糖質化学会大会, 弘前.
- 6) 大城麻里, 田幸正邦, 小西照子 (2009年9月) ハイビスカス由来多糖のヒアルロニダーゼ活性化作用. 日本応用糖質化学会大会, 弘前.
- 7) 田幸正邦, 新里紹太, 何森健, 石田秀治, 木曾真 (2010年3月) 6-デオキシ-D-アルトロースの発見.

日本農芸化学会大会、東京.

## 2. 論文

- 1) Masakuni Tako, Takeshi Teruya, Yukihiro Tamaki and Teruko Konishi (2009年11月) Molecular origin for rheological characteristics of native gellan gum. *Colloid and Polymer Science*, 287, 1445-1454.
- 2) 田幸正邦 (2009年11月) 米澱粉の糊化および老化機構. *New Food Industry*, 51(11), 49-55.
- 3) Takeshi Teruya, Hideki Tatemoto, Teruko Konishi and Masakuni Tako (2009年12月) Structural characteristics and in vitro macrophage activation of acetyl fucoidan from *Cladosiphon okamuranus*. *Glycoconjugate Journal*, 26, 1019-1028.
- 4) 田幸正邦 (2010年1月) オキナワモズクから分離した新規アセチルフコイダンの機能性の開発. *フードリサーチ*, 655, 46-49.
- 5) 田幸正邦 (2010年2月) 多糖類のゲル化機構. *フードリサーチ*, 656, 52-55.
- 6) Takeshi Teruya, Yukihiro Tamaki, Teruko Konishi and Masakuni Tako (2010年2月) Rheological characteristics of alginate isolated from commercially cultured *Nemacystus decipiens* (Itomozuku). *Journal of Applied Glycoscience*, 57, 7-12.
- 7) Chen-Ning Leon Abraham, Yoshinori Kinjyo, Masakuni Tako, Hironori Iwasaki, Hirosuke Oku and Hajime Tamaki (2010年3月) Flavonoid glycosides from shoots of Okinawa Taumu (*Colocasia esculenta* S.). *Food Chemistry*, 119, 630-635.